

高岡町埋蔵文化財調査報告書第14集

城ヶ峰遺跡

1997. 3

宮崎県高岡町教育委員会

城ヶ峰遺跡

項	行	誤	正
例言	17	編集は島田が	編集は今城が
5	21	河岸段丘状に	河岸段丘上に
5	31	交易広さ	交易の広さ
10	図面註記	2 聖地層	2 整地層
p 31	1-ト 遺跡. 番号	131	132
p 31	調査原因	農地改良	農道改良

序 文

この報告書は、農村総合整備モデル事業城ヶ峰集落道整備工事に伴い1995年度に実施した城ヶ峰遺跡の報告書であります。

この城ヶ峰遺跡は花見貝塚など重要な遺跡が所在するところでもあります。今回の調査では、縄文後期の遺物が出土し、当時の歴史を解明する上で多大な成果をあげることができました。発掘調査で得られた成果は先人が残した私達の文化遺産であり、これらの成果を活かすことが我々に課せられた重大な責務と考えております。本書を町内に所在する文化財の保護、さらに本町の学術資料として学校教育、社会教育に幅広く活用して頂ければ幸いに存じます。

なお、発掘調査にあたって御協力頂いた諸関係機関や地権者の方々に深く感謝申し上げます。

1997年3月

高岡町教育委員会

教育長 篠原和民

例 言

1. 本書は、農村総合整備モデル事業に伴い、高岡町教育委員会が高岡町長から受託した城ヶ峰遺跡発掘調査の報告書である。
2. 報告書作成にあたっては賀川光夫氏（元別府大学教授）から指導、助言を得た。
4. 調査ならびに報告書作成にあたっては、・（以上同係埋蔵文化財調査室）、
の協力を得た。
5. 土器の色調に関しては、「新版標準土色帖」（農林省農林水産技術会議事務局監修）による。
6. 本書の方位は磁北である。
7. 本書の執筆分担は末尾に記している。
8. 本書の編集は島田がおこなった。

目 次

I はじめに	1
1 調査に至る経過	
2 調査組織	
II 遺跡の概要	5
1 高岡の環境	5
a 地理的環境	
b 歴史的環境	
2 調査の概要	8
a 調査経過	
b 調査概要	
III 調 査	9
1 第5地点の調査	9
2 第7地点の調査	15
3 第8地点の調査	15
IV まとめ	17

挿 図 目 次

第1図 高岡町遺跡分布図	3	第6図 第5地点出土遺物実測図(2)	12
第2図 城ヶ峰遺跡周辺地形図	6	第7図 第5地点出土遺物実測図(3)	13
第3図 調査地位置図	7	第8図 第5地点出土遺物実測図(4)	14
第4図 第5地点土層図	10	第9図 第5地点出土遺物実測図(5)	15
第5図 第5地点出土遺物実測図(1)	11	第10図 第5地点出土遺物分布図	16

図 版 目 次

図版1 城ヶ峰遺跡遠景	25	図版3 Cトレンチ	27	図版5 出土遺物	29
城ヶ峰遺跡遠景		Dトレンチ		図版6 出土遺物	30
		第7地点近景			
図版2 第5地点近景	26	図版4 第7地点トレンチ	28		
Aトレンチ		第8地点近景			
Bトレンチ		第8地点トレンチ			

表 目 次

表1 出土土器観察表	18	表3 出土石器観察表	21
表2 出土土製品観察表	21	表4 報告書登録抄	31



I はじめに

1 調査に至る経過

高岡町では、基幹産業である農業の振興を目的として、各地区で農道の整備が急ピッチで進められており、今回の発掘調査はその関連による。1995年11月に高岡町教育委員会と同町農村環境整備課は、農村総合整備モデル事業に伴う城ヶ峰集落道整備工事における埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行った。事業予定地は周知の遺跡内にあり、この遺跡ではすべての開発に対しても発掘調査を実施していることから、確認調査をおこなうこととなった。確認調査は同年11月22日に実施し、その結果、縄文土器をはじめ須恵器や土師質皿等を6ヶ所において出土した。そのため、教育委員会は再度農村環境整備課と協議を行い、工法上やむを得ず破壊されるところ3ヶ所においては、記録保存を目的とした事前の発掘調査を実施する事となった。調査地は既存道路に沿って点在しているため、一番西側を第5地点、公民館の道路を挟んだ南側で第3地点の横を第7地点、さらに一番東側を第8地点とした。ちなみに、第6地点は急傾斜対策事業に伴う発掘調査地がそれにあたる。

2 調査組織

調査に関係する組織は次のとおりである。

1995年度

事業主体 高岡町役場

農村環境整備課長 桑木 猛
同 課長補佐 板原 重美
同課農地整備係長 矢野 文雄
同 課 管理係長 小森 宗敏
同課管理係副主幹 小田タミ子

調査主体 高岡町教育委員会

教 育 長 篠原 和民
社会教育課長 岩崎 健一
同課社会教育係長 本田 正雄
同 係 副主幹 丸山 関子
同 係 主 事 島田 正浩
同 係 主 事 今城 正広 (調査担当)

1996年度

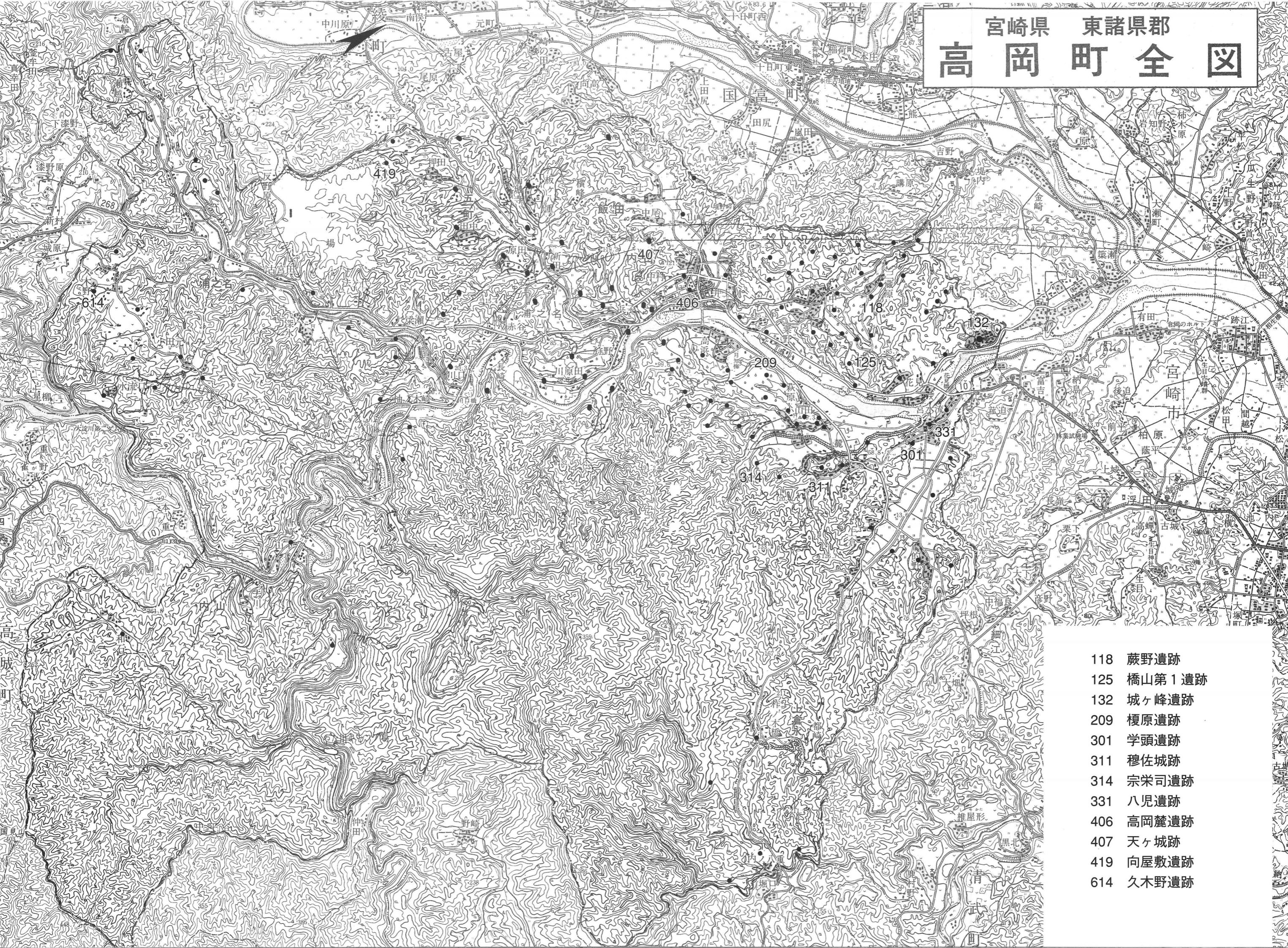
農村環境整備課長 大重 紀宏
同 課長補佐 比良元勝廣
同課農地整備係長 矢野 文雄
同 課 管理係長 小森 宗敏
同課管理係副主幹 有水 篤子

教 育 長 篠原 和民
社会教育課長 小谷 清男
同 課長補佐 梅元 利隆
同課社会教育係長 梅元 利隆
同 係 副主幹 春口 洋子
同 係 主 事 島田 正浩
同 係 主 事 今城 正広

特別調査員 賀川 光夫 (元別府大学教授)

また、発掘調査においては地権者をはじめ地元公民館や工事関係者の方々には多大な協力を得ることができた。さらに、本田道輝 (鹿児島大学)、菅付和樹・永友良典 (以上県文化課)、桑畑光博 (都城市) の各諸氏から助言を得ることができた。記して、感謝する次第である。

宮崎県 東諸県郡
高岡町全図



- 118 蕨野遺跡
- 125 橋山第1遺跡
- 132 城ヶ峰遺跡
- 209 榎原遺跡
- 301 学頭遺跡
- 311 穆佐城跡
- 314 宗栄司遺跡
- 331 八兒遺跡
- 406 高岡麓遺跡
- 407 天ヶ城跡
- 419 向屋敷遺跡
- 614 久木野遺跡

Ⅱ 遺跡の概要

1 高岡の環境

a 地理環境

高岡町南部の高岡山地中央部及び東部には白亜紀の四万十累層群に属する砂岩を伴う頁岩、砂岩頁岩互層が分布しており、一部玄部岩、凝灰岩などの塩基性岩類が含まれる。内ノ八重付近の砂岩頁岩互層中には塩基性岩類に伴って、厚さ1m～2mのチャートが見られる。

高岡山地西部には、古第三紀の四万十累層群に属する砂岩を伴う頁岩、砂岩頁岩互層が分布しており、高岡山地を南北に横切る高岡断層によって前述の白亜紀の層に接している。

高岡町の中心部付近及び高岡山地北部には、新第三紀の宮崎層群に属する砂岩、泥岩、砂岩泥岩互層が広い範囲で分布している。本層は四万十累層群を傾斜不整合に覆う海成層で、貝、カニ、ウニ等の化石を含む。さらに、町中心部付近に及び西部は宮崎層群を不整合に覆い第四紀の礫、砂、及び粘土からなる段丘堆積物、主にシラスからなる始良噴出物、及び主に礫、砂シルトからなる沖積層がみられる。段丘堆積物、始良火山噴出物は急傾斜とその上の広い平坦面や緩斜面から形成される台地状の地形を有している。沖積層は、大淀川、浦之名川、内山川、飯田川等の河川流域沿いに分布している。

b 歴史的環境

70%以上を山林が占める高岡町は、東に位置する宮崎平野と西に広大に広がる標高170m以上の台地の間に位置し、狭い沖積平野や谷、そして小丘陵に生活の基盤をおいている。このような山々や丘陵などを含めた大淀川に起因する地理的条件は、その時々の人々が活躍するための歴史的要因である中のひとつである。

高岡町の遺跡は、現在知られているだけで140箇所あり、それらの遺跡のほとんどは、町中央を東流する大淀川やその支流（内山川・浦之名川など）により形成された河岸段丘状に位置している。

旧石器時代では、表採資料として浦之名一里山地区の剥片尖頭器がある。また、1993年に調査を実施した向屋敷遺跡は、集石遺構と共にナイフ形石器やスクレイパーが出土している。

縄文時代の遺跡は、密度の差こそあれ、河川流域の小丘陵には必ずといってよいほど存在している。特に早期と後期の遺跡が多く知られており、早期は、柑橘栽培による遺構面の攪乱を受けることは少なく、残存状態も良好である。橋山第1遺跡・天ヶ城跡・宗栄司遺跡・橋上遺跡・久木野遺跡の5遺跡で、すでに発掘調査が実施されている。橋山第1遺跡は、早期と後期初頭の遺構遺物が検出された。早期は、幾形式かの集石遺構と、それに伴い、前平・塞ノ神式等の貝殻文系円筒土器や押型文土器、そして、環状石斧などが出土している。後期は、阿高系の岩崎式土器が出土している。また、多くの石錘が出土しており、当時の生活環境を知りうることができる。天ヶ城跡は、標高120mの独立した丘陵に位置し、集石遺構に伴い押型文を中心とした早期の遺物が出土している。また、九州一円からの黒曜石やサヌカイト製の製品が出土し、交易広さを知る手がかりとなる。表採資料からは、山子遺跡が以前から知られており、浦之名川上流に位置する赤木遺跡と同様に後期の貝殻条痕文土器が表採される。

弥生時代では、学頭遺跡があげられる。学頭遺跡は複合遺跡であり、時期は中期後半から終末までが確認されている。河川に挟まれた舌状の微高地に位置する生活遺跡である。また、城ヶ峰遺跡では、後期の遺物が出土している。古墳時代では、東高岡地区と浦之名一里山地区の丘陵を中心として遺跡が広がっている。久木野地下式横穴墓地群で3基の調査が行われており、1984年の調査では鉄斧と玉類が出土し6世紀前半と



第2図 城ヶ峰遺跡周辺地形図

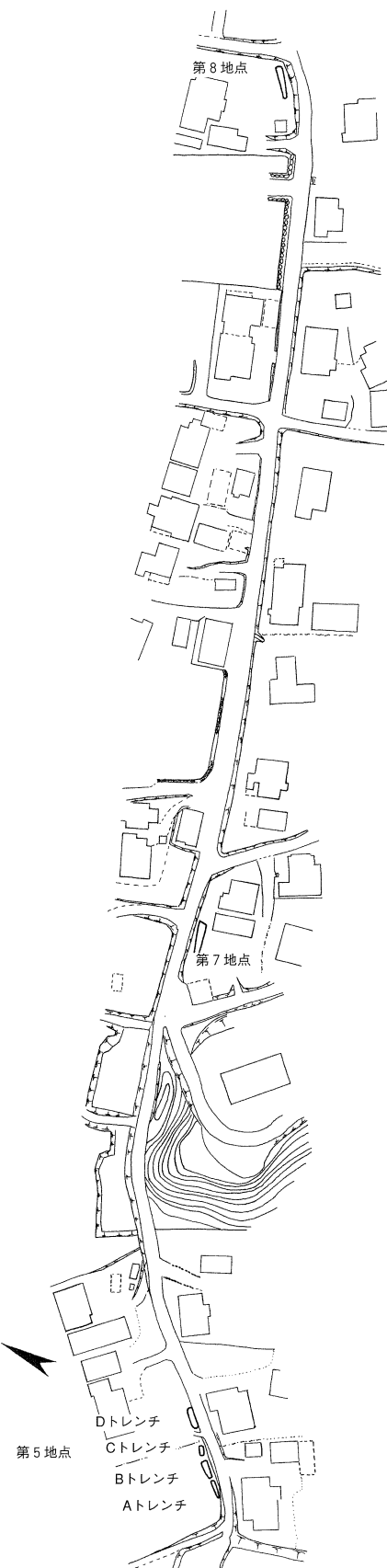
されている。東高岡地区の古墳は未調査であるが、その中のひとつ高岡古墳周辺で古墳時代中期の壺と鉄製品（鉄斧など）が耕作中に発見されている。また、学頭遺跡では初頭～前期にかけての遺物が出土し弥生時代から引き続き集落が営まれている。それに隣接した八見遺跡でも住居跡が検出されている。

古代は、文献によると高岡周辺は「穆佐郷」と言われていた。古代になると、宗栄司遺跡・蕨野遺跡・二反田遺跡があり前者2遺跡で調査が行われている。蕨野遺跡では、9 C後半の土師器生産に伴う焼成土坑（窯）が検出されている。

中世では、12世紀に「島津庄穆佐院」といわれ、南北朝期を経て、島津氏と伊東氏の興亡の歴史の中に入っていく。この時代の代表的なものは山城である。南北朝期は、穆佐城が日向の中心となり足利氏の九州における勢力拡大の拠点となった。それ以後、小規模な山城が点在したと考えられ、現在10箇所以上（文献等では18箇所）を確認している。穆佐城は、三股院高城・新納院高城とともに日向三高城と称されているところである。縄張り調査の成果として、南九州特有の特徴をもつとともに、機能分化をもたせた山城として評価されている。その後、穆佐城は、島津久豊（8代）・忠国（9代）の居城、伊東氏48城のひとつとなるなど両氏の勢力争いの表舞台にあたった。また、このころには、山城などの城郭遺跡以外でも町全体に数多くの遺跡が広がる。

この時期までの中心地は穆佐城周辺だったのに対して、近世になると天ヶ城周辺に一変する。薩摩藩は、天ヶ城（高岡郷）と穆佐城（穆佐郷）の裾地に多くの郷士を居住させた。そして、綾、倉岡とともに関外四ヶ郷として、特に高岡郷はその中心として薩摩藩の東側の防御の要として発展する。高岡麓遺跡では、計画的な街路設計がなされ郷士屋敷群と町屋群に分割されている。そして、第1次調査における町屋の調査で素堀の井戸や土坑等を検出し、大火跡と思われる焼土層を確認している。また、1994年の県文化課による調査では、武家屋敷の一画を調査し陶磁器類を検出している。近世の遺跡は、麓を含めて現在の居住地と重なる場合が多く、表採遺物や石造の墓標の存在も参考となる。

城ヶ峰遺跡は、大淀川北岸にある丘陵上に位置する。その丘陵は標高約40m前後で、高岡町の東端にありすぐ東側は宮崎市となる。この遺跡内には、明治時代に県内ではじめて発見された「花見貝塚」や、県指定文化財の高岡古墳も存在する。さらに、大淀川を挟んだ南岸の微高地には八見遺跡や学頭遺跡など縄文後期から近世までの集落址の遺跡が存在している。



第3図 調査地位位置図

2 調査の概要

a 調査経過

調査対象である第5地点、第7地点、第8地点に約1 m幅のトレンチを設定し、1996年3月の雨の多い時期に調査を実施した。まず、西側の第5地点にA～Dの4つの1 m幅のトレンチを設定した。表土部分がかなり深いことが予想されたが、重機による掘削が困難と見られたので、人力によって表土を剥いだ。また、掘削の際の土置き場がそれぞれのトレンチ周辺に確保できなかったため、Aトレンチ西側の空き地を土置き場とし、一輪車によって運搬することとした。表土中には古墳時代の土師器、須恵器などが確認され、同時期の層がすでに攪乱されていることがわかった。第4～6層で遺物を検出し、各層上面でピットを検出した。アカホヤ火山灰層より下層を約1 m掘削したところ、遺物包含層は確認されず、シラス層がかなり深く継続していたため作業を終了した。また、各トレンチの埋め戻しについては、ベルトコンベアと人力により、重機による埋め戻しが可能なDトレンチと最後の土占めについては重機を使用した。

第7地点については、約1 m幅のトレンチを1つ設定し、人力によって掘削した。表土を掘削した後、アカホヤ火山灰層が確認され、アカホヤ上層はすべて攪乱されていた。さらにアカホヤ下層を掘削したが遺物が確認されなかったため作業を終了した。また、トレンチの埋め戻しについては重機を使用した。

第8地点についても第7地点と同様に約1 m幅のトレンチを設定した。人力による表土掘削の後、第2層、アカホヤ火山灰層が確認されたが、第2層では遺構・遺物は確認されなかった。また、アカホヤ火山灰層より下層についても同様に遺構・遺物は確認されなかった。埋め戻しについては、重機を使用した。

空中写真の撮影については、調査区内に立つ樹木等の障害物により行わなかった。

b 調査概要

第7、8地点では、包含層がほとんど攪乱されて残っていなかったため、調査の中心は第5地点となった。まず、遺構については、第5地点、Aトレンチの第6層において礫が集積したものが1基、溝状遺構が1基確認された。また、同じく第5地点のA～Dトレンチのそれぞれにおいて第4層～第6層にかけていくつかのピットが確認されたが、相互の関連やその利用形態については、面積の限られたトレンチ調査ということもあり、解決できなかった。

遺物については、土器を中心にその外にも土製品や石器なども出土している。土器については、主に、A～Dトレンチの包含層（4～6層）で確認され、縄文後期を中心とするものである。土器は、文様や形状によりⅠ～Ⅵ類に分類した。市来式を中心に出土しているが、縄文早期の塞ノ神式土器が混入しており、花見貝塚の存在を認識させる。層位としては4～6層で出土しているが時期が明確な層はなく、幾時期かのものが混入して出土している。土製品では、土器片を加工した土錘や円盤型土製品がある。石器は石錘、敲石・磨石、石斧、スクレイパーが出土した。

Ⅲ 調 査

1 第5地点の調査

a 層位

第5地点の基本的な堆積状況は、第4図のとおりとなる。

黒褐色の表土（第1層）が深く1mほど堆積し、その下に小石まじりの黒褐色整地層（第2層）が見られる。これまでの第1層、第2層においては遺構・遺物とも見られない。第4層になると、明るく、やや粘質の褐色土層が約30cmの幅で堆積しており、そこからはいくつかのピットが確認され、後述の縄文後期の土器が出土した。また、第4層の上に第2層の黒褐色土と第4層が混在しているところもいくつか見られた（第3層）。第5層になると、褐色でやや第4層よりも硬く、締まった整地層が約40cmの幅で堆積しており、ここからは、縄文後期を中心とする土器等の遺物が出土している。第6層は、同じく褐色の土層で、第4、5層に比べ、粘質で暗く、青みがかっている。この第6層からも縄文後期の土器を中心とする遺物が確認されている。第7層は褐色土にアカホヤ火山灰土が混在したもの。第8、9、10層はアカホヤ火山灰土層が確認された。いずれも20cm～40cmとかなり深く堆積していた。また、アカホヤよりも下層の土層を確認したが、シラス交じりの砂層がかなり深く堆積しており（第11層）、約40cm掘削したところで確認を終えた。

b 遺構

Aトレンチの第6層上において、礫が集積したものが1基確認された。広さは約50センチ四方、深さは20センチと広がりを見せている。この礫群を見ると、そのほとんどが灰褐色の粘土質のもので、火を受けた形跡は見られない。人為的な痕跡であるのか、人為的な痕跡であるならば、その用途はどのようなものであったのか、現在のところ不明である。

また、A～Dトレンチの第4層から第6層にかけて、いくつかのピットが確認された。

c 遺物

遺物はA～Dトレンチの包含層（4～6層）で確認され、縄文後期を中心とするものである。土器は、文様や形状によりⅠ～Ⅵ類に分類した。また、土製品や石器も出土している。

<土器>

Ⅱ類の市来式を中心に出土しているが、それ以外に分類したものの中でもⅡ類に近いものもある。また、縄文早期の塞ノ神式土器が混入しており、花見貝塚の存在を認識させる。層位としては4～6層で出土しているが時期が明確な層はなく、幾時期かのものが混入して出土している。

Ⅰ類（1～8）

口唇部や口縁端に連続刺突文を巡らすもので、外面調整は条痕を残さずにナデ調整である。

A（1・5）口縁端に半竹管状に連続刺突文を施すもの。

B（3・4・6～8）口縁端に貝殻腹縁刺突文を施すもの。

C（2）口唇部に連続刺突文を施すもの。

Ⅱ類（9～28）

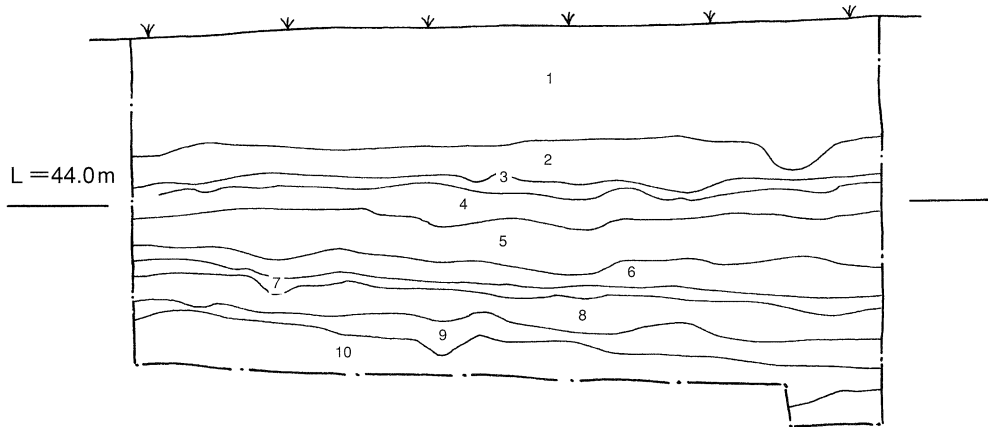
従来、市来式といわれているもので、深鉢（脚台含む）、浅鉢・皿（脚台付）が出土している。

深鉢（9～24）

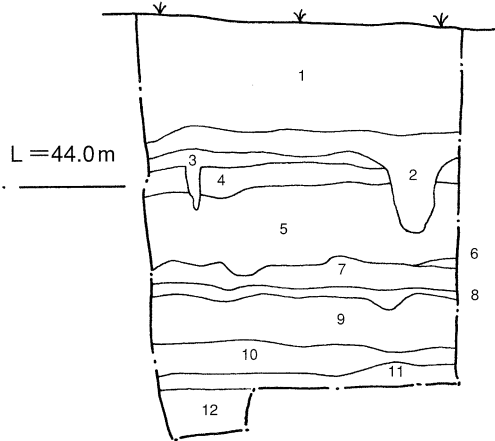
A（9・10・14）波状口縁をなし、口縁部に沈線文、刺突文、爪形文等の文様を施すものである。10は波状口縁で突帯を有し連続刺突文と沈線を施文する。14は、二重口縁をなし、器面調整は貝殻条痕で、文様

第4図 第5地点土層図

Bトレンチ

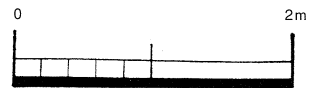
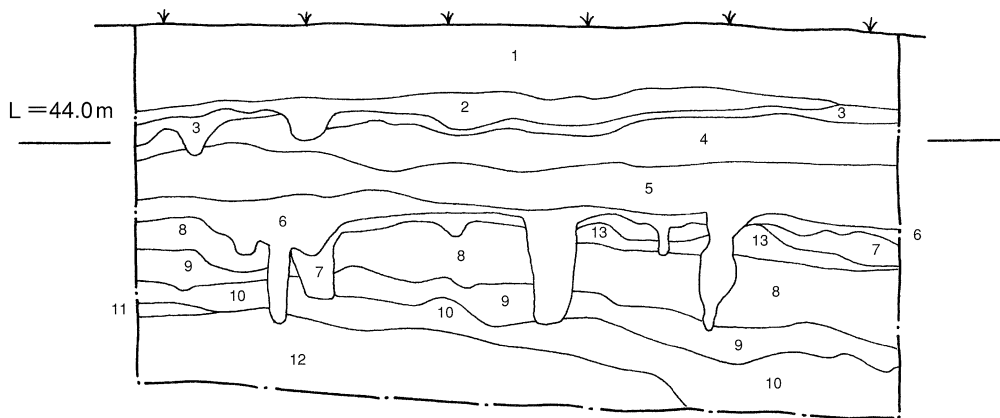


Cトレンチ

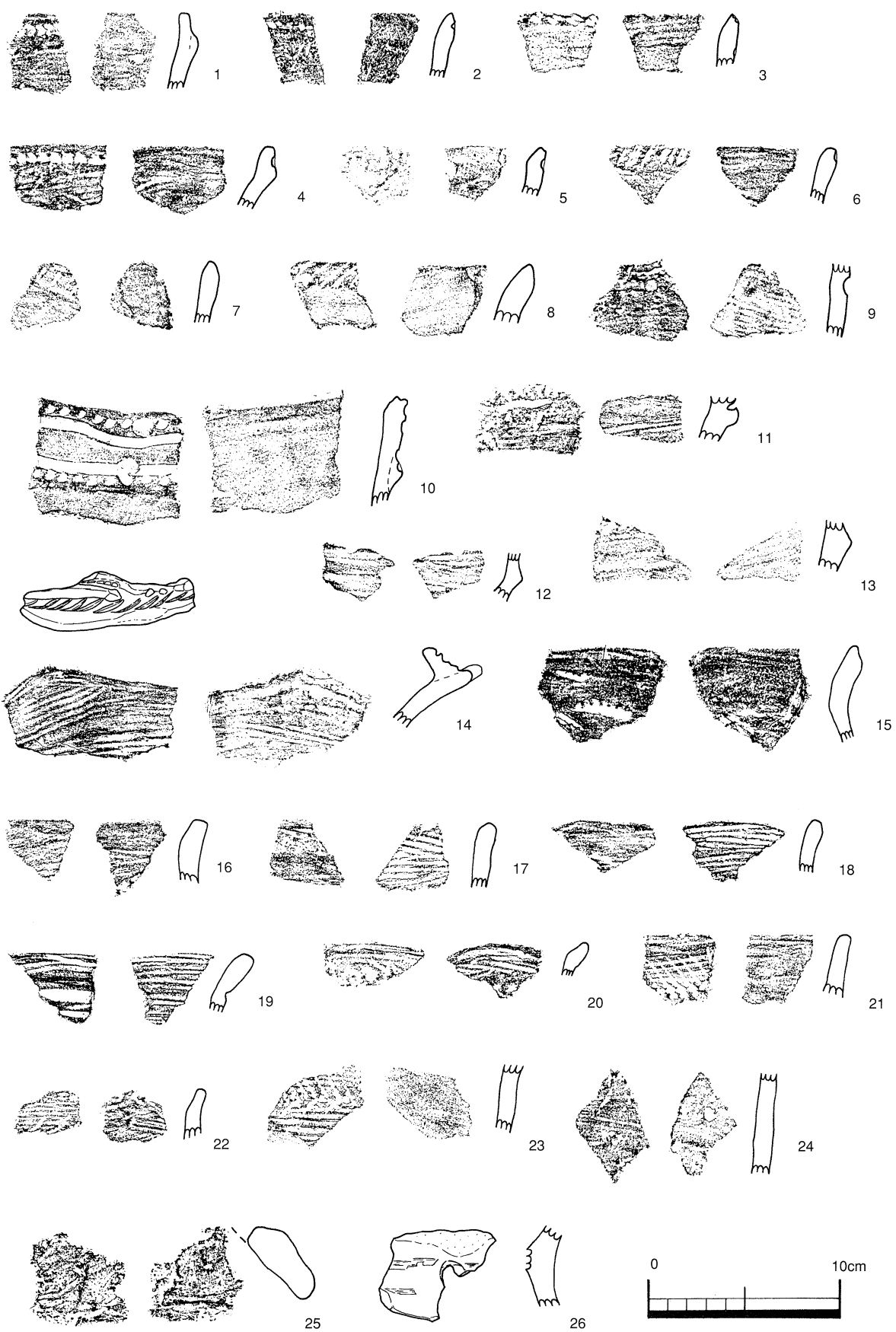


- 1 表土・耕作土
- 2 聖地層 (小石混入)
- 3 黒褐色砂性土 (褐色土が混入)
- 4 明褐色土
- 5 暗褐色土
- 6 褐色粘性土 (5層よりも暗色)
- 7 6層にアカホヤ火山灰が混じる
- 8 黄橙色土 (アカホヤ火山灰土)
- 9 黄橙色土 (アカホヤ火山灰土) 8層より硬質
- 10 黄橙色土 (アカホヤ火山灰土) 砂性
- 11 黄橙色土 (アカホヤ火山灰土) と12層の混入土
- 12 シラス
- 13 明褐色土 (7層よりも明るくアカホヤ火山灰土が混じる)

Dトレンチ



第5图 第5地点出土遺物実測図(1)



第6图 第5地点出土遺物実測图(2)



は沈線文と爪形文を施文する。

B (15~24) 口縁部や頸部に斜位の貝殻腹縁刺突文を施すもので、器面調整は貝殻条痕である。19は口縁部が丸くなって外反する。

C (25・26)

脚部のみ出土で、脚部に透かしをもつ。

浅鉢・皿 (27・28)

27は器面調整が丁寧である。28は脚台付と思われる。

Ⅲ類 (30~32)

沈線間に縄文や貝殻文を施すものである。30は納曾式と思われる。31は北久根山式である。

Ⅳ類 (40~55)

無文土器でほとんどは条痕調整である。40は内外面条痕調整をなし、胴部は張ることなく立ち上がり口縁部は垂直気味となる。その他は破片が小さく器形はわからない。

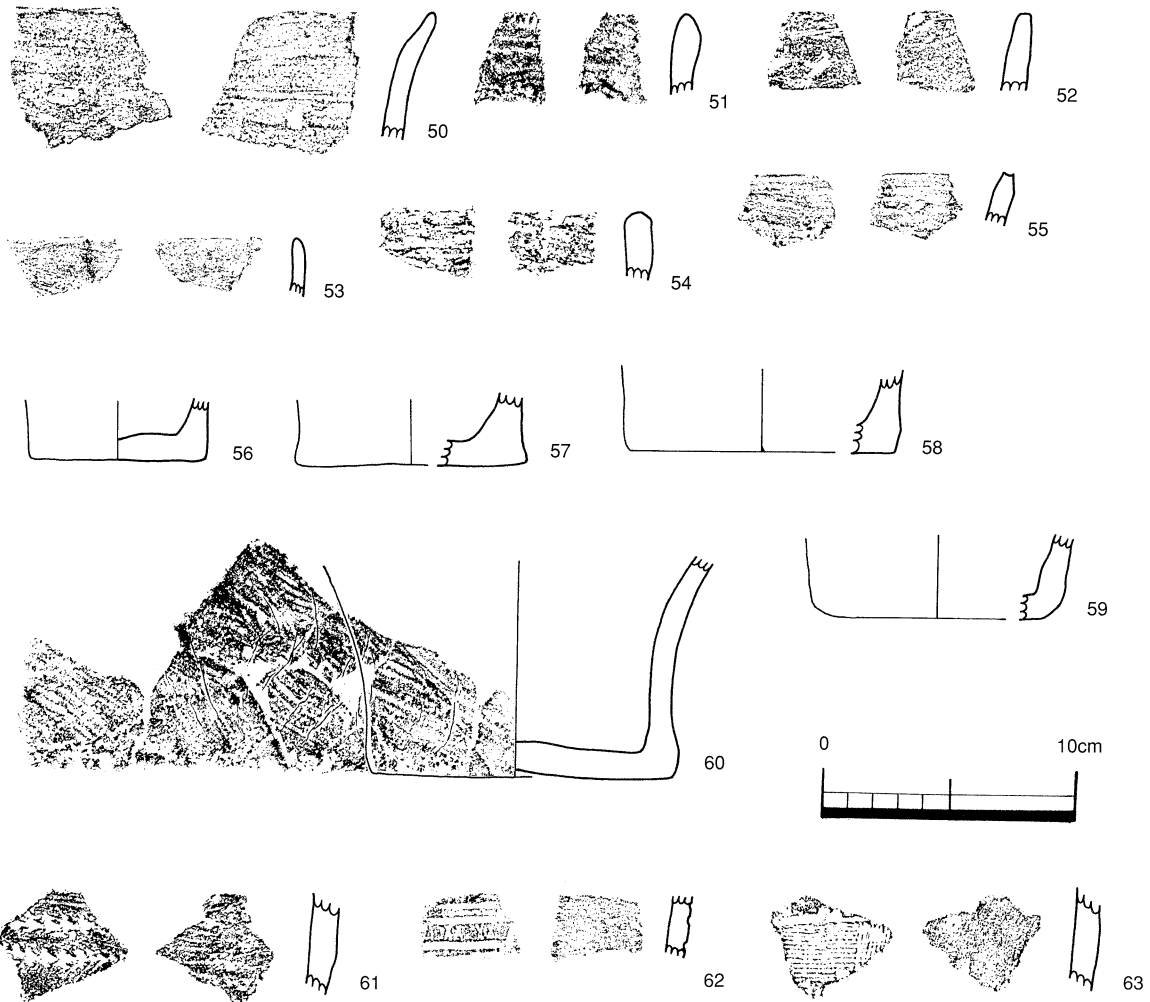
Ⅴ類 (61~63)

塞ノ神式土器である。

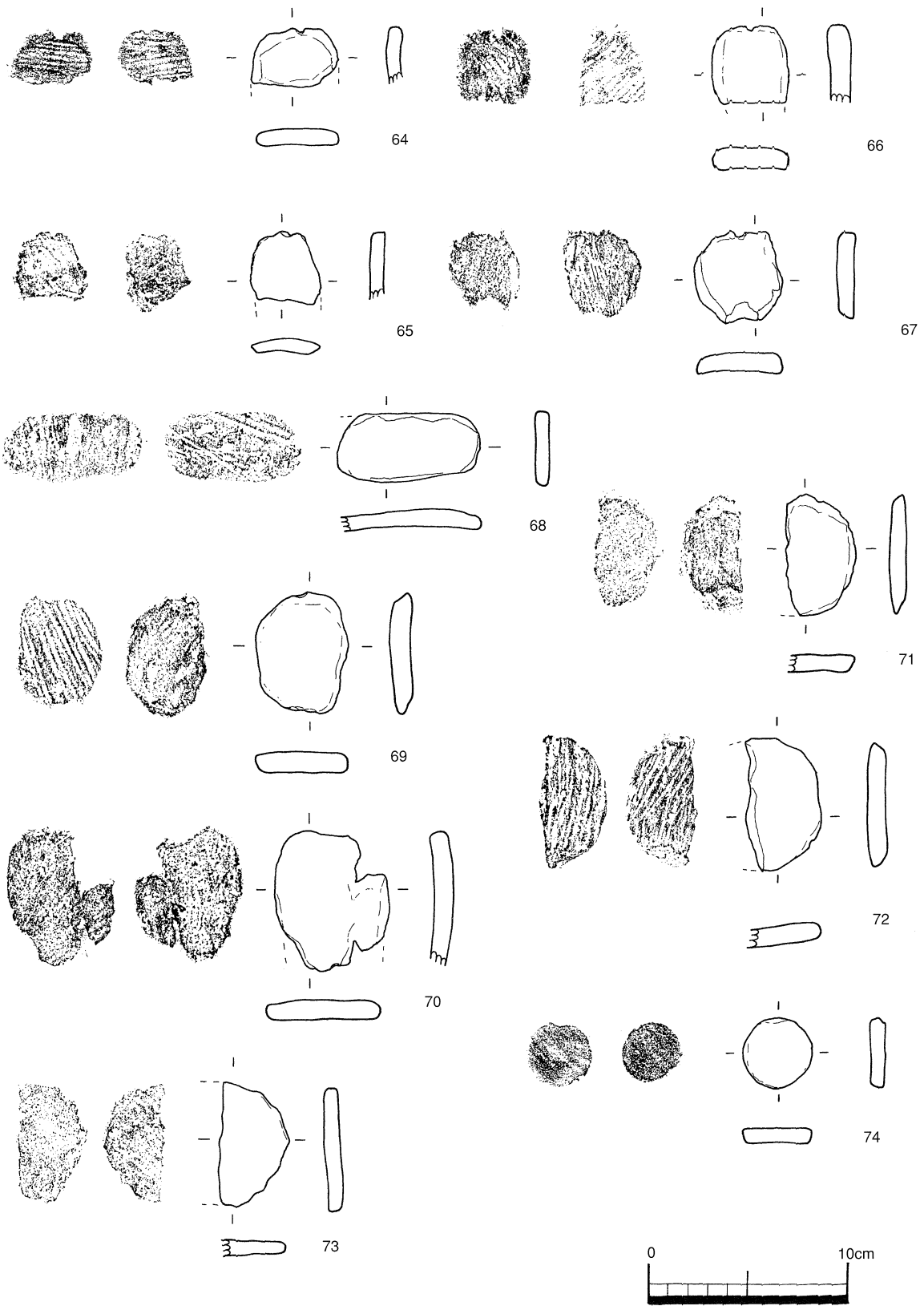
Ⅵ類 (33~39)

その他として一括した。33は口縁部で沈線間に刺突文を施文する。35~37は沈線が施される。38は口縁部が断面三角形で沈線と刺突文が施される。市来式に近いものか。39は連続刺突文を施す。

第7図 第5地点出土遺物実測図(3)



第8图 第5地点出土遺物実測図(4)



<土製品>

土製品では、土器片を加工した土錘や円盤型土製品がある。

土錘（64～70）土器片の側縁を加工し、対に刻目を入れる。

円盤型土製品（71～74）土器片を円盤状に加工したもので土錘のように刻目をもたないもの。

<石器>

石器は石錘、敲石・磨石、石斧、スクレイパーが出土した。

石錘（75～85）

10点出土し、すべて長軸両端を加工した打ち欠き石錘である。石材は1点のみ溶結凝灰岩でそれ以外は砂岩を使用している。o

参考文献

本田道輝「市来式土器」『縄文文化の研究4』雄山閣1981

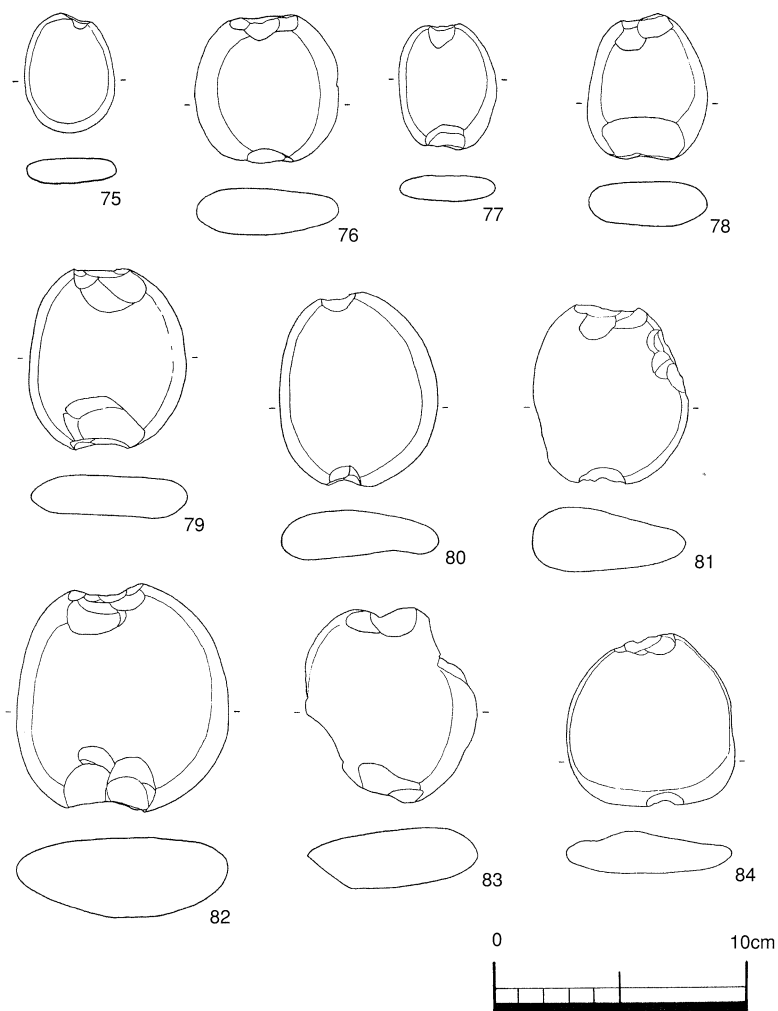
本田道輝「市来・一湊式土器様式」『縄文土器大観4』小学館 1989

菅付和樹「宮大農学部平畑遺跡 X X V

区」『宮崎大学埋蔵文化財調査報告Ⅰ』宮崎大学 1985

永友良典「崩野遺跡」『南郷町文化財調査報告書第2集』南郷町教育委員会1990

第9図 第5地点出土遺物実測図（5）



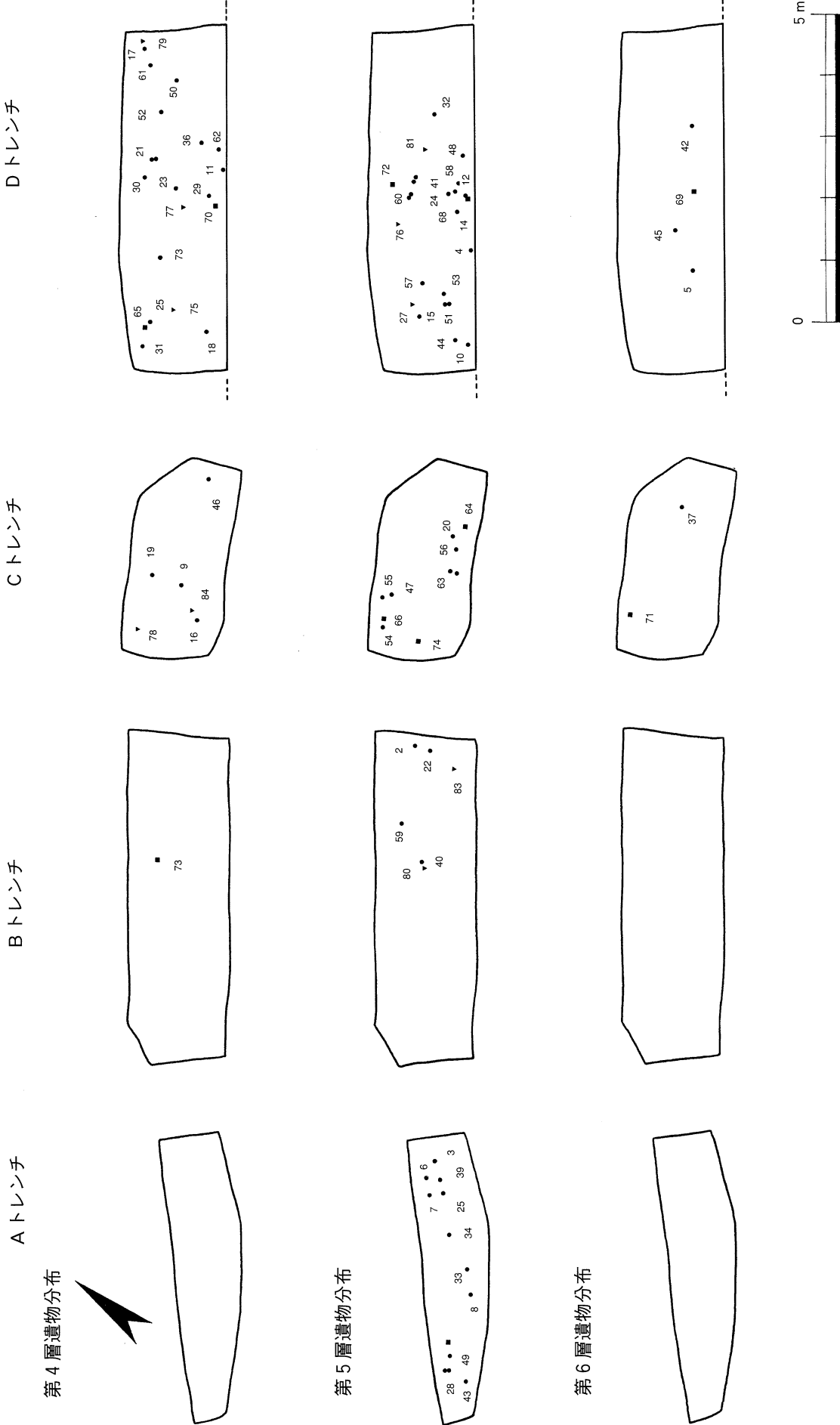
2 第7地点の調査

第7地点については、約1m幅のトレンチを1つ設定し、人力によって掘削した。表土を掘削した後、アカホヤ火山灰層が確認され、アカホヤ上層はすべて攪乱されていた。遺物については、表土内から縄文後期の土器が数点出土したが、すでに攪乱された状態であった。さらにアカホヤ下層を掘削したが遺物が確認されなかったので作業を終了した。また、トレンチの埋め戻しについては重機を使用した。

3 第8地点の調査

第8地点についても第7地点と同様に約1m幅のトレンチを設定した。人力による表土掘削の後、第2層、アカホヤ火山灰層が確認されたが、第2層では遺構・遺物は確認されなかった。また、アカホヤ火山灰層より下層についても同様に遺構・遺物は確認されなかった。埋め戻しについては、重機を使用した。

第10図 第5地点出土遺物分布図



IV まとめ

今回の調査においては、道路拡張部分のトレンチ調査ということで、面積的に非常に限られた範囲で行われたということで、遺構の状況など今調査だけでは分かりづらいところがあった。しかし、層位の状況や出土した遺物などによって、だいたい以下のようなことが分かった。

明治時代に県内ではじめて発見された「花見貝塚」にほど近い所にある本遺跡では、縄文早期の包含層はあらわれなかったが、縄文早期の塞ノ神式土器が縄文後期の包含層の中に混入して出土しており、「花見貝塚」との関連性が想像される。また、縄文後期の遺物については、各トレンチの包含層より市来式を中心に土器が出土している。しかし、A～Dトレンチのいくつかの層からピットが確認されたが、それら相互の関連については明確にはつかめていない。これらについては、本遺跡の歴史的な性格とあわせて、今後の同地区内におけるさらなる発掘調査により解明していく必要がある。

表-1-1

※①口唇部 ②口縁部 ③胴部 ④底部

No.	挿図	図版	出土地点	文様・調整		色 調	胎 土	備 考
				外 面	内 面			
1			A トレンチ 5層	②刺突文 ナデ	②ナデ	内Hue10YR 7/4 にぶい黄橙色 外Hue5YR 7/6 橙色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒多 " 乳白色粒数個	
2			B トレンチ 5層	②刺突文 ナデ	②ナデ	内Hue7.5YR 5/2 灰褐色 外Hue10YR 8/6 灰白色	1 mm前後の茶色粒多 " 黒色粒少 1 mm以下の乳白色粒少	
3			A トレンチ 5層	①へら刺突文 ②条痕	②条痕	内Hue7.5YR 7/4 にぶい橙色 外Hue5YR 6/3 にぶい橙色	1 mm以下の茶色粒少 " 赤褐色粒多 " 茶色粒多 " 乳白色粒少 " 半透明粒少	
4			D トレンチ 5層	②刺突文 条痕	②条痕	内Hue7.5YR 4/4 褐色 外Hue7.5YR 6/6 橙色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒少 " 乳白色粒少	
5			D トレンチ 6層	②刺突文	②ナデ	内Hue10YR 7/3 にぶい黄橙色 外Hue7.5YR 7/4 にぶい橙色	1 mm以下の黒色粒少 " 灰色粒少 " 半透明粒少 1 mm前後の灰褐色粒少	
6			A トレンチ 5層	②斜位貝殻復縁連続 刺突文 条痕	②ナデ	内Hue7.5YR 7/6 にぶい黄橙色 外Hue7.5YR 5/3 にぶい褐色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色粒少 " 赤褐色粒少 " 乳白色粒少 " 赤褐色粒少	
7			A トレンチ 5層	②貝殻復縁連続刺突文 ナデ	②ナデ	内Hue7.5YR 8/3 浅黄橙色 外Hue7.5YR 6/3 にぶい褐色	1 mm以下の赤褐色粒多 " 半透明粒少 " 黒色粒少 " 乳白色粒数個 2 mm位の赤褐色粒2個	
8			A トレンチ 5層	②斜位貝殻復縁連続 刺突文 ナデ	②ナデ	内Hue7.5YR 6/4 にぶい橙色 外Hue5YR 6/6 橙色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒少 " 乳白色粒少 1 mm前後の赤褐色粒少	
9			C トレンチ 4層	②条痕 沈線文	②条痕	内Hue5YR 6/6 橙色 外Hue5YR 4/2 灰褐色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒少 " 乳白色粒数個 2～3 mmの赤褐色粒数個	
10			D トレンチ 5層	①沈線文 ②ナデ 列点文 沈線文	②ナデ	内Hue7.5YR 7/4 にぶい橙色 外Hue7.5YR 7/3 にぶい橙色	1 mm以下の赤褐色粒多 " 乳白色粒少 " 黒色粒少 " 半透明粒少 1～3 mmの赤褐色粒少	
11			D トレンチ 4層	③沈線文 ナデ	③ナデ	内Hue5YR 6/6 橙色 外Hue5YR 6/6 橙色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒少 " 乳白色粒少 2 mm位の赤褐色粒1個	
12			D トレンチ 5層	③ナデ	③条痕	内Hue10YR 7/4 にぶい黄橙色 外Hue5YR 6/6 橙色	1 mm以下の半透明粒少	
13			B トレンチ 7層	③ナデ 貝殻刺突文	③ナデ	内Hue5YR 6/6 橙色 外Hue5YR 7/6 橙色	2 mm位の透明粒1個 1 mm以下の半透明粒多 " 乳白色粒少 " 黒色粒少	
14			D トレンチ 5層	②条痕 沈線文 爪形文	②条痕	内Hue2.5YR 6/8 橙色 外Hue5YR 6/8 橙色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色粒少 1～2 mmの乳白色粒少	
15			D トレンチ 5層	②貝殻刺突文 条痕	②条痕 ナデ	内Hue7.5YR 7/6 橙色 外Hue7.5YR 6/6 橙色	1 mm以下の半透明粒多 " 乳白色粒少 " 黒色粒少	
16			C トレンチ 4層	②条痕 貝殻刺突文	②条痕	内Hue5YR 6/6 橙色 外Hue5YR 6/4 にぶい橙色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒少 " 乳白色粒少	
17			D トレンチ 4層	②条痕	②条痕	内Hue5YR 6/6 橙色 外Hue5YR 6/6 橙色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒少 " 乳白色粒少 1 mm位の茶色粒1個 透明粒1個	
18			D トレンチ 4層	②条痕	②条痕	内Hue5YR 5/6 明赤褐色 外Hue5YR 5/4 にぶい赤褐色	1 mm以下の半透明粒少 " 乳白色粒少 " 黒色粒少	
19			C トレンチ 4層	②沈線文 横位貝殻腹縁刺突文	②条痕	内Hue5YR 6/6 橙色 外Hue5YR 5/6 明赤褐色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒少 " 乳白色粒少 1～3 mmの橙色粒3個	
20			C トレンチ 5層	②斜位貝殻刺突文	②条痕	内Hue5YR 6/4 にぶい橙色 外Hue5YR 6/4 にぶい橙色	2 mm位の赤褐色粒2個 1 mm以下の半透明粒多 " 乳白色粒少 " 黒色粒少 4 mm位の乳白色粒1個	
21			D トレンチ 4層	②条痕 斜位貝殻腹縁連続 刺突文	②ナデ	内Hue2.5YR 5/6 明赤褐色 外Hue2.5YR 5/6 明赤褐色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒多 " 乳白色粒少	

表一 1-2

※①口唇部 ②口縁部 ③胴部 ④底部

No.	挿図	図版	出土地点	文様・調整		色 調	胎 土	備 考
				外 面	内 面			
22			B トレンチ 5層	②斜位貝殻復縁連続 刺突文	②条痕	内Hue5YR 6/6 橙色 外Hue5YR 6/6 橙色	1 mm以下の赤褐色粒多 " 乳白色粒少 " 黒色粒少 1～3 mmの乳白色粒数個 1 mm前後の赤褐色粒数個	
23			D トレンチ 4層	②斜位貝殻復縁連続 刺突文 条痕	②ナデ	内Hue5YR 5/6 赤褐色 外Hue5YR 3/2 赤褐色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒多 " 乳白色粒少	
24			D トレンチ 5層	②斜位貝殻復縁連続 刺突文 条痕	②条痕	内Hue5YR 6/6 橙色 外Hue5YR 5/4 にぶい赤褐色	1 mm以下の半透明粒多 " 乳白色粒少 1 mm前後の黒色光沢粒少 1～2 mmの小石数個	
25			D トレンチ 4層	④ナデ	④ナデ	内Hue7.5YR 8/4 浅黄橙色 外Hue7.5YR 8/4 浅黄橙色	1～2 mmの赤褐色粒多 1 mm以下の乳白色粒少 " 黒色光沢粒数個 2 mm位の半透明粒1個	
26			C トレンチ 5層	③ナデ 横貝殻刺突文	③ナデ	内Hue5YR 7/1 黒色 外Hue10YR 7/3 にぶい黄橙色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒多 " 乳白色粒少	
27			D トレンチ 5層	②ミガキ	②ミガキ	内Hue5YR 5/3 にぶい赤褐色 外Hue5YR 6/4 にぶい橙色	1 mm以下の黒色粒多 1～2 mmの赤褐色粒少 " ゴールド粒1個	
28			A トレンチ 5層	②ナデ	②ナデ	内Hue10YR 7/3 にぶい黄橙色 外Hue7.5YR 7/4 にぶい橙色	1～3 mmの赤褐色粒多 1 mm以下の黒色粒少 " 灰色粒少	
29			D トレンチ 5層	③沈線文	③条痕	内Hue5YR 6/6 橙色 外Hue5YR 6/6 橙色	1 mm前後の半透明粒多 " 乳白色粒 " 黒色光沢粒少	
30			D トレンチ 5層	③貝殻腹縁刺突文 沈線文	③条痕	内Hue5YR 6/6 橙色 外Hue5YR 6/6 橙色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒少 " 乳白色粒少 2 mm位の黒色粒1個 3 mm位の乳白色粒1個	
31			D トレンチ 4層	③沈線間に縄文? ナデ	③条痕	内Hue7.5YR 6/3 にぶい褐色 外Hue2.5YR 6/6 褐色	1 mm以下の乳白色粒多 " 半透明粒少 " 黒色光沢粒少 5 mm位の白色粒1個	
32			D トレンチ 5層	②ていねいなナデ縄文 沈線文	②ていねいなナデ	内Hue10YR 5/1 褐灰色 外Hue10YR 7/6 にぶい黄橙色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒多 " 乳白色粒少	
33			A トレンチ 5層	①斜位沈線 ②沈線間に刺突文	②条痕	内Hue10YR 6/2 灰黄褐色 外Hue10YR 8/2 灰白色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒少 " 乳白色粒少	
34			A トレンチ 5層	③沈線文	③ナデ	内Hue5YR 5/4 にぶい赤褐色 外Hue7.5YR 6/4 にぶい橙色	1 mm以下の半透明粒多 " 乳白色粒少 " 黒色粒少 6 mm位の赤褐色石1個	
35			A トレンチ 5層	②刺突文 ナデ	②ナデ	内Hue10YR 7/4 にぶい黄橙色 外Hue5YR 7/6 褐色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒多 " 乳白色粒数個	
36			A トレンチ 5層	①刺突文 ②沈線文	②ナデ	内Hue10YR 8/4 浅黄橙色 外Hue10YR 8/4 浅黄橙色	1 mm前後の茶色粒多 1 mm以下の黒色光沢粒少 1 mm位の灰色石1個	
37			C トレンチ 6層	②条痕後縦沈線	②条痕	内Hue7.5YR 7/6 褐色 外Hue2.5YR 7/1 灰白色	1 mm以下の黒色光沢粒多 " 半透明粒多 " 乳白色粒少 " 赤褐色粒少	
38			D トレンチ 4層	①刺突文 ②沈線文 ナデ	②ナデ 条痕	内Hue7.5YR 7/4 にぶい褐色 外Hue7.5YR 7/4 にぶい褐色	1 mm前後の茶色粒多 1 mm以下の黒色光沢粒多 " 半透明粒少	
39			A トレンチ 5層	③縦貝殻刺突文	③ナデ	内Hue10YR 6/4 にぶい黄橙色 外Hue10YR 6/3 にぶい黄橙色	1 mm前後のゴールド粒多 1 mm以下の半透明粒多 " 乳白色粒少	
40			B トレンチ 5層	①刻目 ②条痕 ナデ	②条痕	内Hue5YR 7/4 にぶい褐色 外Hue7.5YR 7/4 にぶい褐色	1 mm前後の赤褐色粒多 " 褐色粒少 1 mm以下の黒色粒少 " 乳白色粒少	
41			D トレンチ 5層	②ナデ 斜沈線文	②条痕	内Hue10YR 8/4 浅黄褐色 外Hue7.5YR 7/6 褐色	1～2 mmの褐色粒多 1～3 mmの褐色粒多 1 mm以下の黒色光沢粒少 " 半透明粒少	
42			D トレンチ 6層	②条痕	②条痕	内Hue10YR 8/3 浅黄褐色 外Hue7.5YR 7/3 にぶい褐色	1 mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒多 " 乳白色粒少 " 赤褐色粒少	

表一1-3

※①口唇部 ②口縁部 ③胴部 ④底部

No.	挿図	図版	出土地点	文様・調整		色 調	胎 土	備 考
				外 面	内 面			
43			A トレンチ 5層	②条痕	②条痕	内Hue10YR 7/4 にぶい黄橙色 外Hue10YR 7/1 褐灰色	1～3mmの小石数個 1mm前後の茶色粒少 " 灰色粒多 1mm以下の乳白色粒数個	
44			D トレンチ 5層	②条痕	②条痕	内Hue5YR 5/4 にぶい赤褐色 外Hue5YR 5/4 にぶい赤褐色	1mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒多 " 乳白色粒少	
45			D トレンチ 6層	②条痕	②条痕	内Hue5YR 6/6 橙色 外Hue5YR 6/6 橙色	1mm以下の半透明粒多 " 乳白色粒少 " 黒色光沢粒少	
46			C トレンチ 4層	②ナデ	②ナデ	内Hue5YR 7/6 橙色 外Hue10YR 7/3 にぶい黄橙色	2mm位の 白色粒1個 1～2mmの褐色粒少 1mm以下の黒色光沢粒数個 " 乳白色粒数個	
47			C トレンチ 5層	①刻目 ②ナデ	②ナデ	内Hue10YR 7/3 にぶい黄橙色 外Hue7.5YR 7/4 にぶい橙色	1mm前後の赤褐色粒多 1mm以下の黒色粒少 " 乳白色粒数個 3mm位の 茶色石1個	
48			D トレンチ 5層	②ナデ	②条痕	内Hue10YR 7/3 にぶい黄橙色 外Hue10YR 7/4 にぶい黄橙色	1mm以下の黒色光沢粒少 " 半透明粒少 " 乳白色粒少	
49			A トレンチ 5層	②ナデ	②条痕	内Hue2.5YR 6/6 橙色 外Hue2.5YR 6/6 橙色	1mm以下の黒色光沢粒多 " 半透明粒多 " 乳白色粒数個 " 黄色透明粒少	
50			D トレンチ 4層	②ナデ	②条痕	内Hue2.5YR 8/3 淡黄色 外Hue2.5YR 8/3 淡黄色	1mm前後の半透明粒多 1mm以下の黒色粒多 " 乳白色粒少 3mm位の 赤褐色粒1個	
51			D トレンチ 5層	②ナデ	②ナデ	内Hue10YR 7/4 にぶい黄橙色 外Hue10YR 7/4 にぶい黄橙色	1mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒少 " 乳白色粒多	
52			D トレンチ 4層	②ナデ	②ナデ	内Hue7.5YR 7/4 にぶい橙色 外Hue7.5YR 7/3 にぶい橙色	1mm前後の赤褐色粒多 1mm以下の黒色光沢粒少 " 乳白色粒少 1～3mmの小石少	
53			D トレンチ 5層	②ナデ	②ナデ	内Hue5YR 6/4 にぶい橙色 外Hue7.5YR 6/4 にぶい橙色	1mm以下の灰色粒少 " 黒色粒少 " 茶色粒少 1mm位の 白色粒1個	
54			C トレンチ 5層	②条痕	②条痕	内Hue7.5YR 7/4 にぶい橙色 外Hue10YR 6/2 灰黄褐色	1～2mmの赤褐色粒多 " 灰色粒少 1mm前後の乳白色粒数個	
55			C トレンチ 5層	①沈線文 ②ナデ	②条痕	内Hue7.5YR 7/4 にぶい橙色 外Hue5YR 7/4 にぶい橙色	1mm以下の黒色粒少 " 赤褐色粒少 " 半透明粒少 " 白色粒数個 " 乳白色粒数個	
56			C トレンチ 5層	④ナデ	④ナデ	内Hue5YR 6/6 橙色 外Hue5YR 6/6 橙色	1mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒少 " 乳白色粒少	底径7cm
57			D トレンチ 5層	④条痕 ナデ	④ナデ	内Hue10YR 7/3 にぶい黄橙色 外Hue10YR 7/3 にぶい黄橙色	1mm以下の黒色粒少 " 乳白色粒少 " 透明粒少	底径9.2cm
58			D トレンチ 5層	④ナデ	④ナデ	内Hue7.5YR 6/6 橙色 外Hue7.5YR 7/6 橙色	1mm以下の乳白色粒多 " 半透明粒多 " 黒色粒少	底径10.4cm
59			B トレンチ 5層	④ナデ	④ナデ 条痕	内Hue5YR 6/6 橙色 外Hue5YR 6/6 橙色	1mm以下の透明粒	
60			D トレンチ 5層、4層	④条痕	④条痕	内Hue5YR 6/6 橙色 外Hue5YR 6/6 橙色	1mm以下の乳白色粒少 " 黒色粒少 " 半透明粒多	底径12.6cm
61			D トレンチ 4層	③貝殻連続刺突文	③ナデ	内Hue10YR 6/3 にぶい黄橙色 外Hue10YR 7/4 にぶい黄橙色	1mm以下の黒色光沢粒多 " 半透明粒多 " 乳白色粒多 " 赤褐色粒少	
62			D トレンチ 4層	③沈線間により糸	③ナデ	内Hue10YR 7/4 にぶい黄橙色 外Hue2.5YR 7/4 浅黄色	1mm以下の半透明粒多 " 黒色光沢粒少 " 乳白色粒少	
63			C トレンチ 5層	③沈線間により糸	③ナデ	内Hue5YR 6/6 橙色 外Hue5YR 6/6 橙色	3mm位の 白色粒1個 1mm前後の半透明粒多 " 黒色光沢粒少 " 乳白色粒少 1mm以下の赤褐色粒少	

表—2

No.	挿図	図版	出土地点	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
64			Cトレンチ5層	土 錘	2.8以上	4.2以上	0.7	11以上		欠損
65			Dトレンチ4層	土 錘	3.6以上	3.4	0.8	8以上		欠損
66			Cトレンチ5層	土 錘	3.8以上	3.8	1.1	18以上		欠損
67			Aトレンチ5層	土 錘	4.3	4.2	0.9	18		
68			Dトレンチ5層	土 錘	7.1以上	3.5	0.9	27以上		欠損
69			Dトレンチ6層	土 錘	5.8	4.6	1.1	34		
70			Dトレンチ4層	土 錘	6.8以上	5.6	1.0	43		欠損
71			Cトレンチ6層	円盤状土製品	5.8	3.5以上	0.9	17		欠損
72			Dトレンチ5層	円盤状土製品	6.6	3.8以上	0.9	25		欠損
73			Bトレンチ4層	円盤状土製品	6.1	3.4以上	0.8	17		欠損
74			Cトレンチ5層	円盤状土製品	3.4	3.4	0.7	10		

表—3

No.	挿図	図版	出土地点	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
75			Dトレンチ4層	石 錘	4.7	3.5	0.94	25	細粒砂岩	
76			Dトレンチ5層	石 錘	5.8	5.6	1.8	85	中粒砂岩	
77			Dトレンチ4層	石 錘	5.0	3.8	1.0	28	細粒砂岩	
78			Cトレンチ4層	石 錘	5.75	4.7	1.8	44	溶結凝灰岩	
79			Dトレンチ4層	石 錘	7.1	6.2	1.55	99	細粒砂岩	
80			Bトレンチ5層	石 錘	7.6	6.2	1.93	130	中粒砂岩	
81			Dトレンチ5層	石 錘	7.0	6.2	2.5	152	細粒砂岩	
82			Dトレンチ4層	石 錘	9.0	8.4	3.15	320	細粒砂岩	
83			Bトレンチ5層	石 錘	7.7	6.8	2.3	140	細粒砂岩	
84			Cトレンチ4層	石 錘	6.8	6.6	1.65	100	細粒砂岩	

図 版



城ヶ峰遺跡遠景



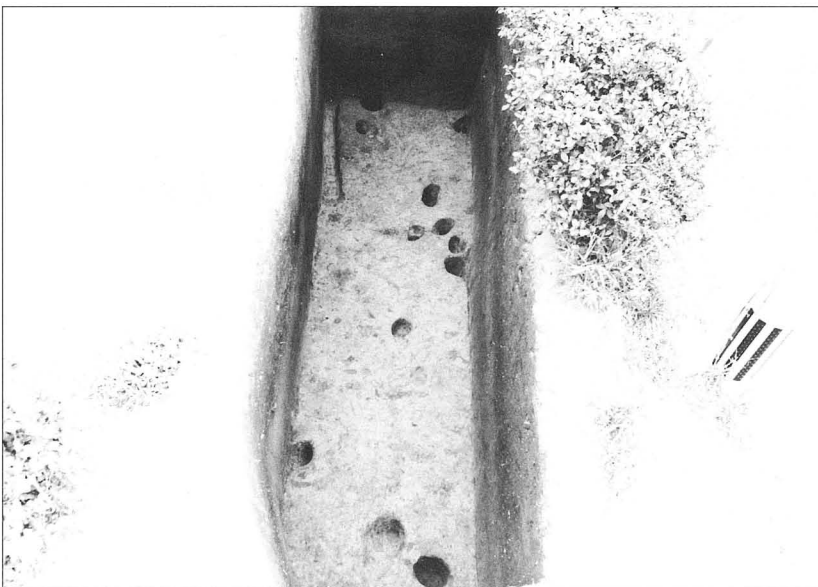
城ヶ峰遺跡遠景



第 5 地点近景

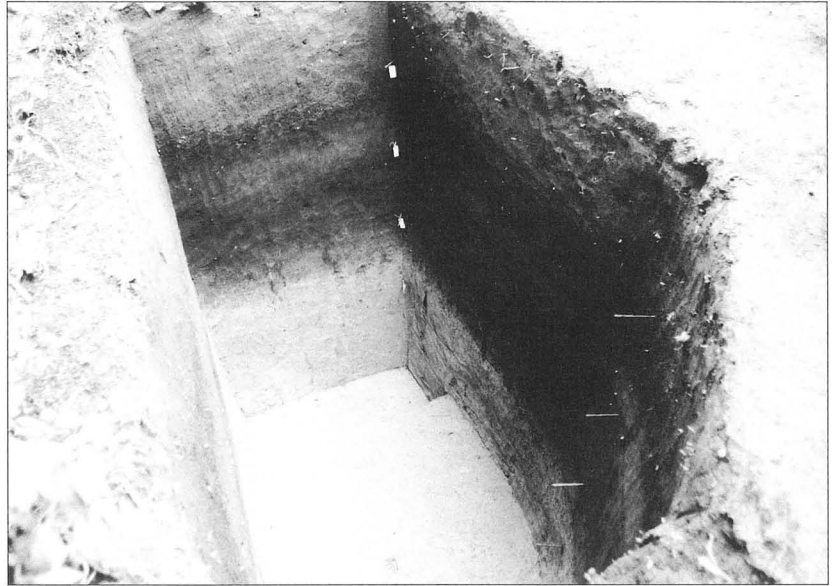


A トレンチ

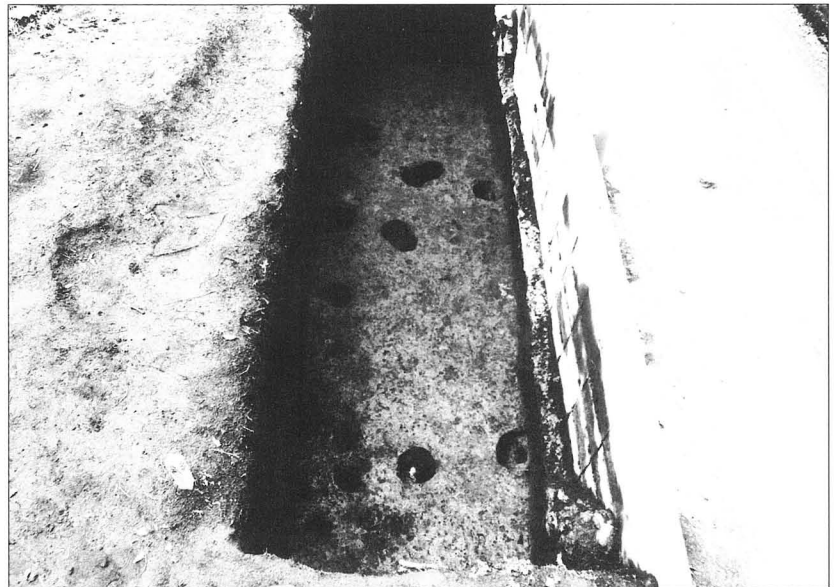


B トレンチ

Cトレンチ



Dトレンチ



第7地点近景

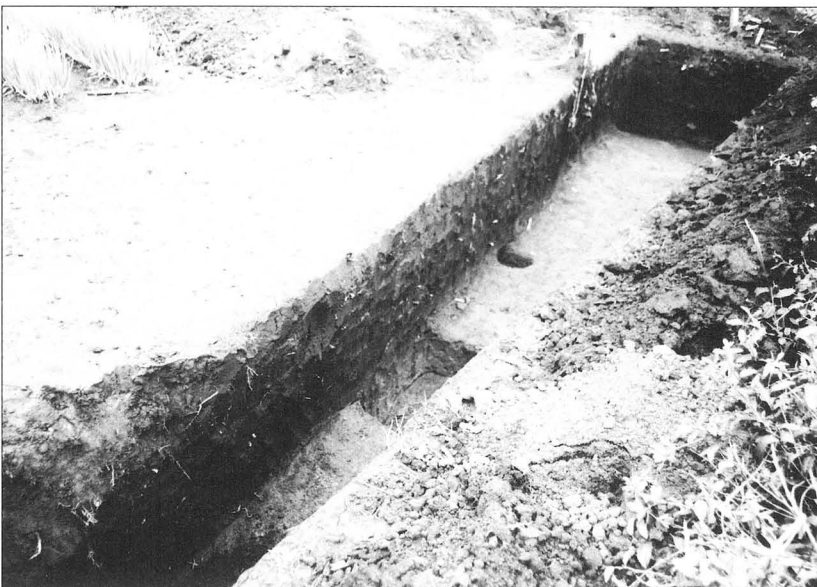




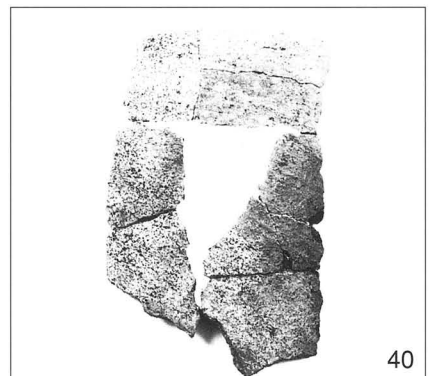
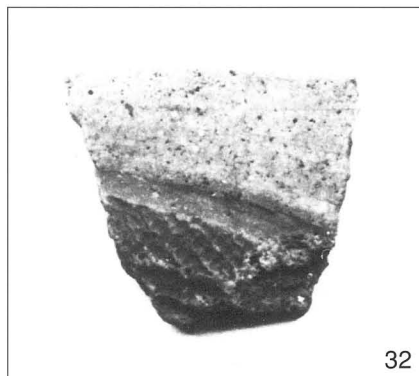
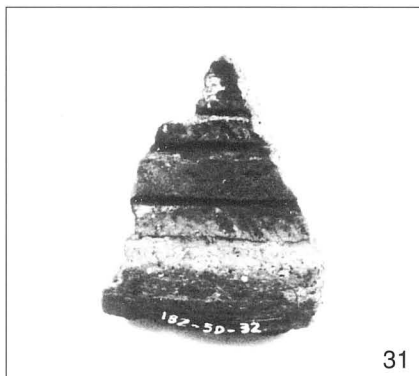
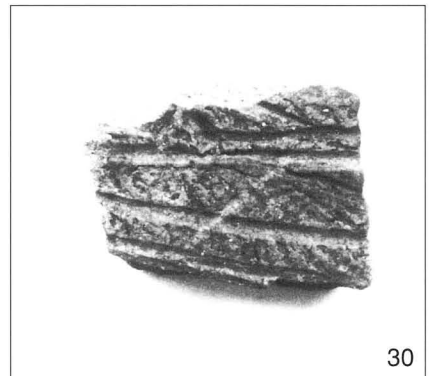
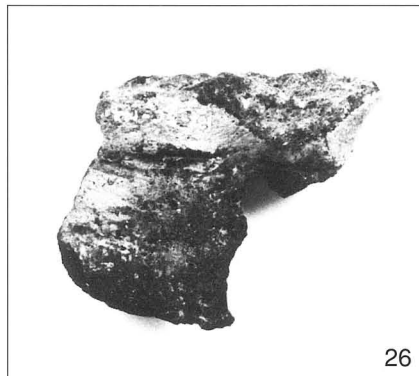
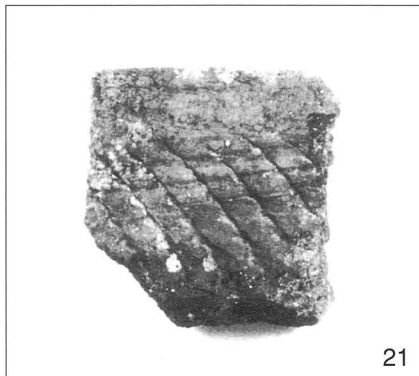
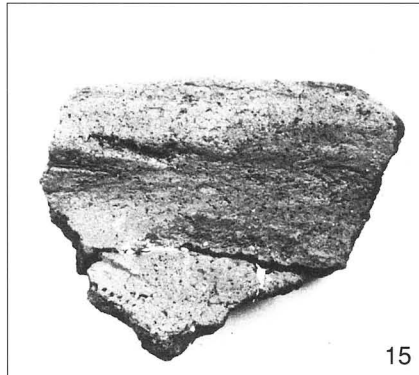
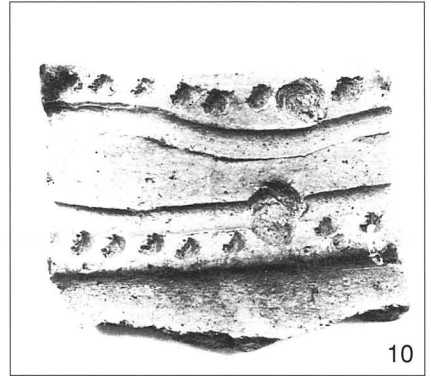
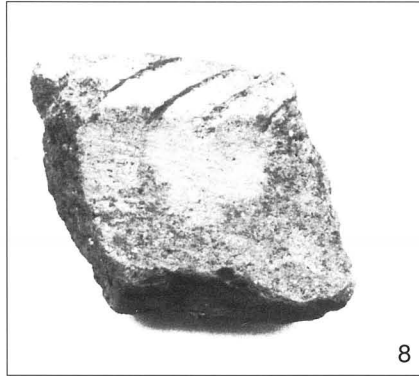
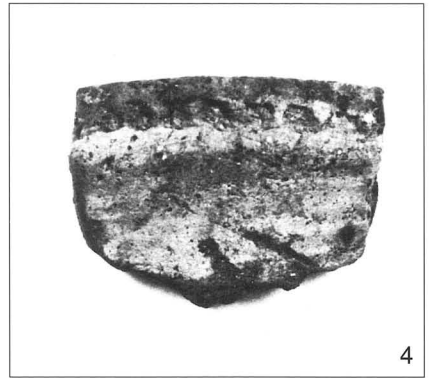
第7地点トレンチ

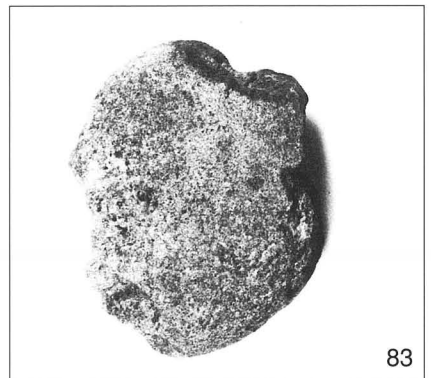
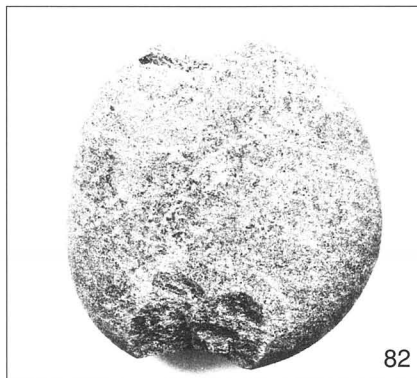
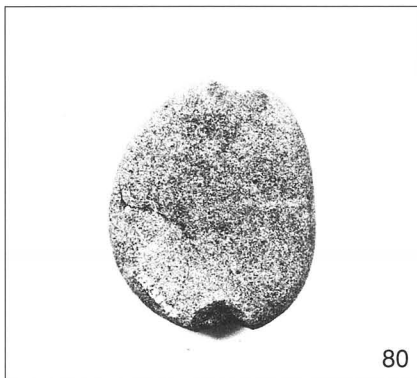
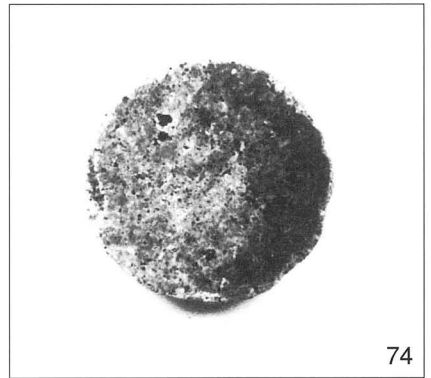
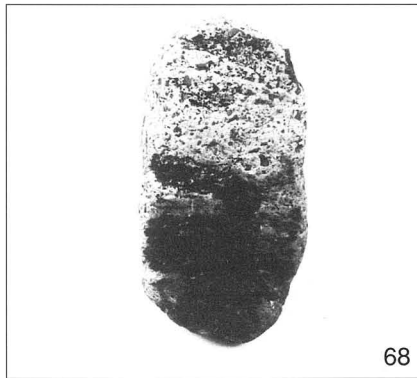
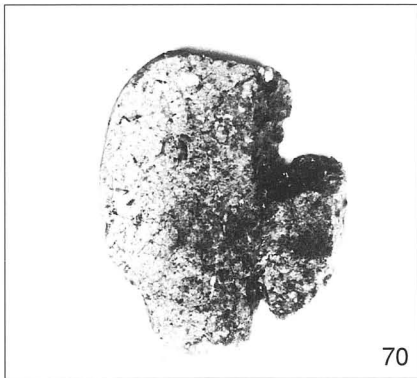
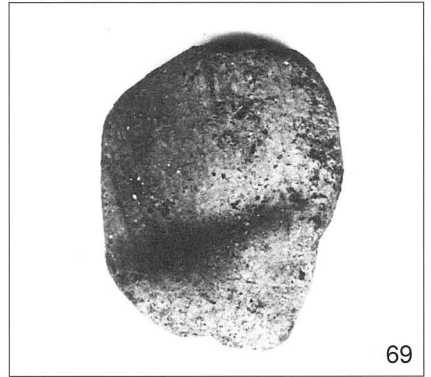
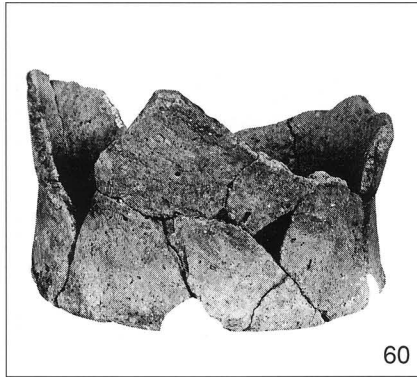
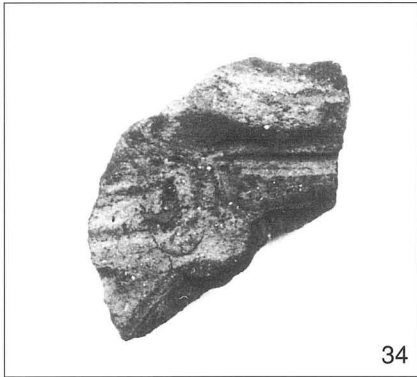
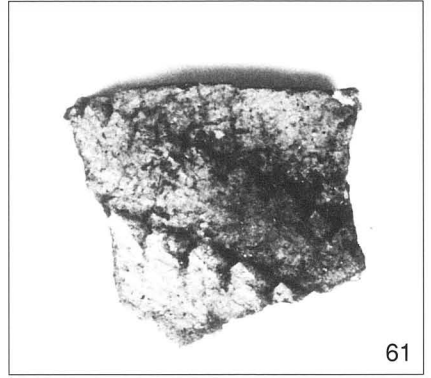
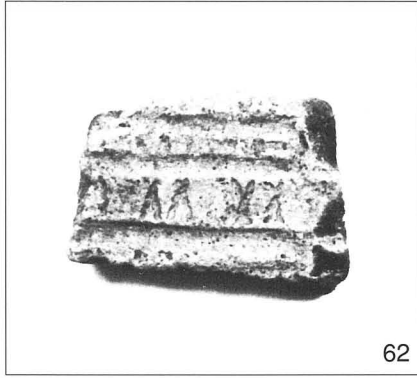
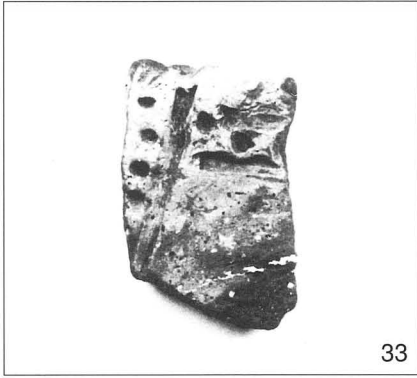
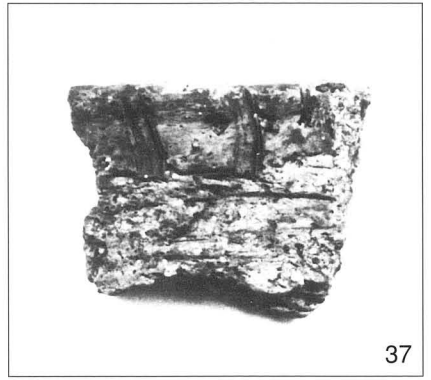
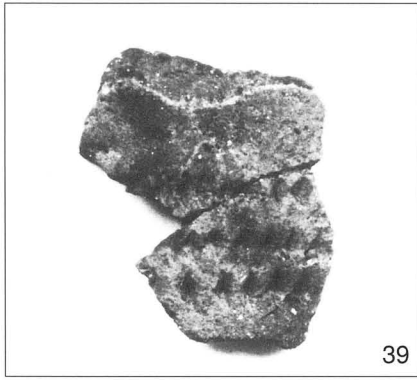
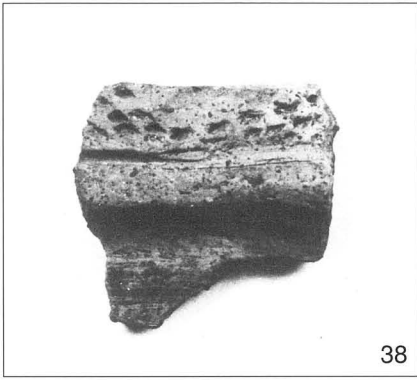


第8地点近景



第8地点トレンチ





表一 4 城ヶ峰遺跡報告書登録抄

フリガナ	ジョウガミネイセキ
書名	城ヶ峰遺跡
副書名	農村総合整備モデル事業城ヶ峰集落道路整備工事に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻次	第1巻
シリーズ名	高岡町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第14集
編集者名	今城正広
発行機関	高岡町教育委員会
所在地	宮崎県東諸県郡高岡町大字内山2887番地
発行年月日	1997年3月31日

収蔵遺跡名	所在地	コード		緯度	経度	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
じょうがみねいせき 城ヶ峰遺跡	ひがしもろかなくんたかねからしょう 東諸県郡高岡町 おおあさひなみ 大字花見5434-3	45-381	131	31° 56′ 49″	131° 20′ 30″	1996. 2. 27 ～1996. 3. 31	63㎡	農地改良
種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項	
散布地	縄文後期	ピット			縄文土器			

高岡町埋蔵文化財調査報告書第14集

発行：高岡町教育委員会
宮崎県東諸県郡高岡町大字内山2887
TEL0985・82・1111
平成9年3月31日
印刷：秀巧社印刷株式会社